

2025 年 5 月 30 日 和歌山中ロータリークラブ 卓話

本日はこのような貴重な機会をいただき、誠にありがとうございます。本日のテーマは「心不全にご注意を」です。心不全というと特別な病気のように思われがちですが、実際には高血圧や糖尿病、肥満、喫煙といった身近な病気や生活習慣が引き金となり、誰にでも発症する可能性のある病気です。しかも一度発症すると完治は難しく、多くの場合、再発を繰り返しながら生涯にわたり向き合う必要があります。

そこで重要なのが、「発症予防」と「再発予防」です。私たちは令和 2 年、医療・介護・福祉に携わる多職種によって「和歌山心不全地域連携の会」を立ち上げ、施設の垣根を越えて連携しながら活動を進めてきました。そして令和 6 年 6 月、より強固で持続可能な体制を築くため、NPO 法人「和歌山心不全アラート」を設立いたしました。

私たちは、患者さんご自身が体調の変化に気づき、必要に応じて医療にアクセスできるよう、「和歌山心不全アラート」システムと「和歌山心不全手帳」を開発しました。アラートでは、体調の状態を信号のように“赤・黄”で可視化し、患者・家族・医療者が共通の言語で状況を共有できる仕組みです。手帳の表紙には、和歌山県のマスコットキャラクター「きいちゃん」も登場し、親しみやすさにも配慮しています。

現在までに 5,000 冊以上の手帳を無償で配布し、患者さんはもちろん、ご家族や地域全体の安心につながる支援を行ってきました。医療・介護・福祉の専門職を対象とした講演会や勉強会も積極的に開催し、連携の輪を広げています。

こうした取り組みは、行政や企業、地域の皆さまのご理解とご協力があってこそ成り立つものです。NPO 法人化により、定款に基づいた組織的な運営が可能となり、現在は医師・看護師・薬剤師・理学療法士・介護支援専門員など、多様な職種 17 名が理事として参画しています。和歌山県内の主要な専門職団体からもご推薦をいただき、地域に根差した活動を展開しています。

今後も「顔の見える連携」を大切にしながら、心不全患者さんにご家族、そして現場で働く医療・福祉・介護の皆さまを支える活動を継続してまいります。どうぞご支援をいただけましたら幸いです。

NPO 法人 和歌山心不全アラート 代表

和歌山県立医科大学 教育研究開発センター 准教授

谷本貴志